

# 人・往来

## 山口 道子 さん

(津軽警備保障)  
(代表取締役)



# ヒューマン・インタビュー——現場の声を聞く

△今年2月に経済産業省と日本健康会議から「健康経営優良法人」に認定され、5月25日に青森県から「健康経営事業所」に認定されました▽

「健康経営」は、社員の心と身体を健康を重視する取り組みを進めることです。当社は、10年以上前からがん検診やインフルエンザの予防接種を会社負担で全社員に行っております。

喫煙と受動喫煙が原因となる病気のリスクを社員に知らせて、まずは建物内を、それから敷地内や社用車も禁煙にしました。

毎月の衛生会議は熱心な産業医を交え有意義な話し合いの場となっております。また、生活習慣の改善や感染症の予防法などの情報を伝える衛生管理者からの社内報「衛生委員会だより」は、年に数回の発行を重ねて50号を超えています。

△健康増進に力を入れるきっかけは、どのようなことでしたか▽

【プロフィール】(あまべち・みちこ)青森県南津軽郡藤崎町出身。幼児教育の専門学校を卒業後、東京都内の社会福祉法人「嬉泉」の施設に勤務し、自閉症の子供たち

あるベテラン社員が、健康診断で「再検査」の判定が何度も出ていたにもかかわらず、受診していませんでした。後になって、がんが進行していたとわかりました。

再検査の判定が出たら必ず受診するように呼び掛けなければならぬ、そう痛感しました。それから私は、社員の健康づくりを強く意識するようになったと思います。

## 社員を守る「健康経営」

して職場復帰し、定年まで無事に勤めることができました。この10年は、再検査の判定を受けた社員の2次検診受診率は、ほぼ100%です。

△専業主婦から経営者になるまでを聞かせて下さい▽

当社は、父(故・金崎一誠氏)が創業しましたが、私は家業に携わる経験を持たずに嫁ぎました。

を指導。専業主婦を経て1996(平成8)年津軽警備保障入社、専務取締役。1999(平成11)年、代表取締役。昨年から弘前商工会議所の人財育成委員長。

経営を受け継ぐことになることは夢にも思っていませんでした。

父は54歳で膀胱がんのため他界し、社長に就任した母は、62歳でも臍下出血のため寝たきりになりました。

兄は常務取締役を務めていましたが、もともと心臓に持病があり41歳で亡くなりました。当時(22年前)の経営は非常に厳しい状態でした。私は、高校受験を控えた娘が

決心をしました。

社員の中には結婚する人や子供が生まれる人もいて、本人と家族の生活が、会社の今後にかかっていったのです。無我夢中でしたが、「社員とその家族を守りたい」という思いが原動力になりました。

この思いは今も同じです。病気になると本人だけでなく家族もつらい思いをするので、これからも健康増進を図ってまいります。

△地域に密着した警備業務で発展し、今年で創業45周年を迎えました。大切にしてきたことは▽

常にお客さまの期待に応えられるように、社員教育を徹底することです。ミスした社員に注意する時や考え方を伝えたい時などに、私は長文の手紙を書いていました。例えば、現場のリーダーに成長してほしいと願いをこめて、厳しい言葉だけでなく、長所もほめるようにしました。口頭で済ませるよりもしっかりと伝わり、成長してくれたと実感しています。

理想を高く持って教育指導を行い、警備員の知識と技能、サービスをより高めることで、顧客の評価も高まる好循環が生まれます。支えてくれたお客さま、一緒に頑

張ってくれた社員、そして私が悩んだ時に、警備業の先輩方が親身になってアドバイスをしてくださったおかげで今日があると感謝しています。

△弘前商工会議所の人財育成委員長として、地元企業に就職する若者を増やす活動をしています▽  
大都市への人口流出を止めるために各分野の講師を招いて人材確保のセミナーを開いたり、地元の学生と意見交換を行っています。若い人が関心を持つのは、働きやすさ、職場環境、だと感じます。

職場環境の改善では長時間労働の是正が課題となっていますが、警備員不足が続く中、まだまだ残業があるのが当社の現状です。これまでは、業務が多忙になると社員同士で声を掛け合い、長時間の勤務も頑張ってくれて、ありがたく思っていました。しかし今後は職場環境や待遇面の更なる改善を進めなければなりません。

経営者がわが子に会社を継がせたいと思うように、現場の警備員が、息子や娘を人任せにしたいと思ってしまう会社が増えることが、一層の業界発展につながるかと考えています。(聞き手・都築孝史)

### 津軽警備保障

●創業：1973(昭和48)年3月 ●本社：青森県弘前市大字神田3-3-17 ●業務：1号・2号警備業務 ●社員数：85人